

研究主題 知的障害がある生徒の体力・運動能力と健康意識に関する研究 ～ベースボール型競技の普及に向けた実践と課題①～

I 団体の概要及び研究の背景

東京都知的障害特別支援学校・特別支援学級設置学校を対象に、体育・保健体育に関する研究の推進と共に、各種競技の普及、スポーツを通じた交流機会の企画・振興を図ることを目的とした団体である。団体発足の直接の契機は、昭和34年の第1回特殊学級球技大会（参加校…青鳥養護学校、荒川一中他10学級程度）である。以後、現団体名に至るまでに、運営方法や団体名が変わりつつも「知的障害のある児童生徒にも、多くの運動・スポーツの機会を」という発足当時の願いを引き継ぎ、知的障害のある子どもにとって分かりやすいルールや運営方法について研究を重ねてきた。現在では、陸上競技、キックベースボール、ソフト・ティーボール、バスケットボール、サッカー、バレーボールの各種大会や指導者講習会等、年間を通じて主催している。

令和4年度からは、保健体育授業、運動部活動の指導、各種競技大会の充実に向けて、体力・運動能力等の実態把握、体育・スポーツ、健康に関する本人意識についてのアンケート調査等、基礎的調査も実施し、知的障害のある児童生徒の実態の見直しを図っている。

本連盟が昨年度実施した知的障害特別支援学校高等部の生徒を対象とした保健体育授業への意識に関する調査によると、保健体育の授業について肯定的な回答（「好き」、「どちらかと言えば好き」）が約8割であった（図1）。一方、体力・運動能力の結果は、男子ハンドボール投げを筆頭に、健常の高校生と比較するとその差は著しい（図2）。

また、団体が主催するソフト・ティーボールの大会についても、近年参加校数が2校にまで減少し、大会の開催が困難で講習会という形式でという運営している現状がある。

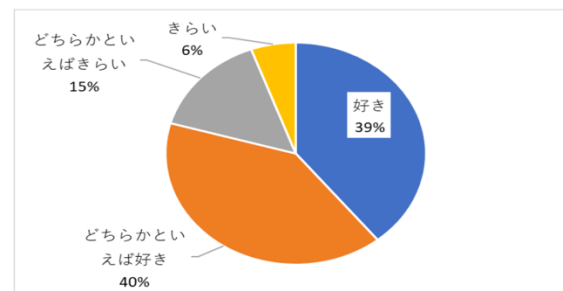


図1. 体育授業の好嫌(n=1064)

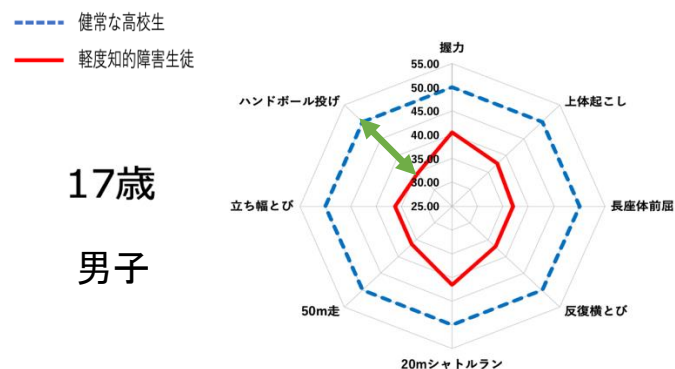


図2. Tスコアによる健常な高校生(スポーツ庁, 2022)との比較

II 研究の目的

本研究では、以下の2点について明らかにし、今後の会運営、特別支援学校・支援学級での指導の方向性を見出すことを目的とする。

- i. ソフト・ティーボール講習会参加者の満足度の把握
- ii. 指導及び会運営に関わる教員の意識

III 研究方法

i については、調布基地跡地飛行場で実施されたソフトボール講習会(9/6)に参加した高等部生徒17名に、満足度等に関するアンケートを実施した。

ii については、講習会終了後、事前に会運営と日頃の指導に関して聞き取り項目を伝えておき、ソフト・ティーボール部会議(10/17)で意見交換を行い、内容を分類して整理した。

VI 結果

i. 参加者(高等部生徒)の満足度と卒業後の運動継続の意欲



ii. 指導及び会運営に関わる教員の主な回答

主な意見	現状	改善策
・参加のあり方	・各校ごと	・連合、個人参加の容認
・開催時期	・9月前半は酷暑	・9月後半も視野に
・ティーボール積極的導入	・用具活用率が低い	・当団体による指導方法の発信

V 今後の課題と展望

○参加者(当事者)の意識に即した大会運営

参加者全員が「満足」以上の回答をしていた。今回の講習会では、日本女子体育大学ソフトボール部の現役選手等からのコーチングと交流がプログラムに反映されたことも満足度を高めた要因であると考えられる。卒業後も機会があれば参加したいと8割が回答していることから、何らかの形で卒業生の参画を検討する必要も考えられる。

また、指導及び運営に関わる教員からの回答にあるように、練習方法や場所の問題はあるが、ニーズに応じて、合同チームや個人での参加も模索していく必要があると考えられる。

○各学校での指導の取組とその方向性

生徒の投動作の向上、当団体が主催する大会参加校を増やすことに関連する事として、授業や部活動でティーボールの活用を増やし、障害の程度が中重度の生徒でも、ベースボール型競技への興味や関心が高まるような土台づくりが必要。この点については、引き続きの課題としつつ、次年度以降は実践事例等を紹介していきたい。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟
代表者	所属	東京都立王子特別支援学校
	職氏名	校長 久保井 礼
	連絡先	03-3909-8777
事務局(研究)	所属	東京都立練馬特別支援学校
	職氏名	指導教諭 石川 敦士
	連絡先	03-5393-3524